

令和3年度第2回京都府地域部活動推進検討委員会（概要）

- 1 日 時 令和3年12月10日（金）午後2時30分から同4時30分まで
- 2 場 所 京都産業大学むすびわざ館 3階 3-A教室
- 3 出席者 (出席委員) 田川さなえ、中村裕予、長積 仁、密谷由紀、村上昌司、森口 茂
8名（50音順・敬称略）
(欠席委員) 坂本博士、西本吉生
(事務局) 柏木保健体育課長、関係課職員 14名
(傍聴者) なし
- 4 内 容
 - (1) 開会（司会 野中総括指導主事兼係長）
 - (2) 委員長挨拶（座長 委員長）
 - (3) 議事
 - ア 説明Ⅰ「運動部活動の地域移行に係る現状について」
 - イ 説明Ⅱ「事業計画について」
 - (4) 講演「部活動の地域への移行について」
講師 リーフラス株式会社 代表取締役社長 伊藤清隆 様
 - (5) その他
 - (6) 閉会

5 議事概要

説明Ⅰ「運動部活動の地域移行に係る現状について」

【説明（事務局）】

[スポーツ庁「運動部活動の地域移行に関する検討会議」概要]

- スポーツ庁において「運動部活動の地域移行に関する検討会議」が始まり、各関係団体でもこの話題が数多く取り上げられ、全国で急速に議論が進んでいる。
- 当検討会議では、5つの事項（①地域における受け皿の整備、②指導者の質及び量の確保、③運動施設の確保の方策、④大会の在り方、⑤費用負担の在り方）を中心に議論が進められており、地域のニーズや状況に合わせた制度設計や、地域部活動にふさわしい指導者の確保、民間企業等との連携、生徒にとってふさわしい大会の在り方、費用の保障制度だけでなく新たな財源の確保等について意見が出ている。また、社会教育としての枠組みの整理等も挙げられた。
- 今後、各地域がどのようなプロセスを持って地域移行を進めていくのか、また、どのような課題を重点化しながら進めていくのかが示せるよう議論がスタートしたところである。

[本府の外部指導者の活用状況等]

- 今後、地域へ部活動が移行した際、外部指導者には、地域での活動にも協力を願うことが推察されることから、府教育委員会の『京都式「部活動サポート」事業』（部活動への地域人材の派遣）に係わる外部指導者・学校関係者へのアンケート結果について紹介する。
 - ①顧問が部活動指導で抱えている課題には、中学校・高校ともに「専門的指導力の不足」「校務多忙で部活動指導の時間がない」が多かったが、外部指導者の活用により9割以上の顧問が「物理的、精神的負担が軽減された」と回答。
 - ②外部指導者の活用による効果は、「生徒が活発に活動するようになった」「競技力の向上がみられた」に9割が回答。地域の人材が部活動指導に携わることによって、教員の負担軽減だけでなく、生徒の活動にも良い影響がある。
 - ③外部指導者がやりがいを感じている割合は、中学校で98.7%、高校で97.8%。
- 日本スポーツ協会が全国を対象に行った「学校運動部活動指導者の実態に関する調査」の結果を紹介する。
 - ①部活動指導の際の地域との連携では、中学校・高校ともにスポーツ少年団が約8割と高く、総合型スポーツクラブとも約6割が交流をしていると回答。
 - ②休日の部活動が地域に移行された際の顧問の意向では、約4割が「地域の人材に任せたい」と回答。一方で約3割が「兼職兼業の許可を得た上で自身が指導したい」とも回答。

③外部指導者のスポーツ資格の保有状況では、中学校・高校ともに約半数が保有。

- 単に部活動を地域へ移行させるのではなく、新しい部活動の形として何ができるのかを検証することが大切。また、地域の人材が部活動指導に携わることによって、教員の負担軽減だけでなく、生徒の活動にも良い影響があるという調査結果も踏まえた京都のモデルづくりが必要。舞鶴市と京丹波町の取組は、新しい部活動のモデルとして大きな位置づけになると考えている。

【質疑応答】（●委員：意見・質問、○事務局：説明・回答）

- 外部指導者から課題や解決策についての思いが何か届いているか。
- 直接的には伺っていない。

説明Ⅱ「事業計画について」

【説明（舞鶴市教育委員会、京丹波町教育委員会）】

〔舞鶴市の取組〕

- 休日の部活動を学校から切り離すこと、生徒の満足度を上げること、教員の働き方改革に繋がること、そのための基盤作りに取り組むことを目標としている。
- 舞鶴市7中学校の教員と舞鶴市スポーツ協会の指導者が加入できる人材バンクを、総合型地域スポーツクラブ「舞鶴ちゃったスポーツクラブ」に設置。今年度は剣道、柔道、陸上競技の3部活で実施し、これらの練習に人材バンクに登録した指導者を派遣する基盤を作った。
- 4月に舞鶴ちゃったスポーツクラブへ人材バンクの設立を依頼。スポーツ協会へ地域人材の確保の協力要請。校長会へも協力の依頼。コロナの影響により計画を見直し、7月に第1回合同会議を開催。10月に剣道の練成会を始め、ここまで5回実施し年度中に計10回を予定。陸上競技は12月より開始し計6回を予定。柔道は現在調整中。
- 成果として、剣道は専門性の高い指導を受けており、参加生徒や保護者から喜びの声を聞いている。今後、アンケートを実施し広く声を聞く予定。また、中学生の部活動だが、地域の小学生や未経験者も参加。この活動があるから剣道をやってみようという生徒もおり、競技人口の増加に繋がっていると思われる。これらは中学校の部活動単体ではできなかったこと。
- 課題として、自校のチームで自分の指導方針で部活動を希望する教員もいることから、地域全体で部活動を進めていくという考えにまだ繋がっていない。また、指導者の職業によっては謝金を受領できない方や、予算の関係で指導者数を限定することからボランティアで携わる方もおられ、謝金の取扱いが心苦しい。なお、3種目の指導者の確保はそれほど難しくはなく、精選が課題。今後は指導者が集まりにくい種目に目を向けることも必要。
- 運営の基盤作りは、学校、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ協会、競技団体のそれぞれの競技に対する思いがあるため、意思疎通・共通理解を深めることが大事。
- 多くの個人情報管理することから、市教育委員会主体の管理からどうするか検討が必要。
- 個人種目だけではなく、団体種目で設定することも大事。
- この事業が終わってからの継続に向けて、全国の事例も参考に進めていきたい。また、広く市域へも周知を図っていくべきと考えている。

【質疑応答】（●委員：意見・質問、○舞鶴市教委：説明・回答）

- 人材バンクの内容を教えてほしい。
- 剣道4名、陸上競技10名。熱心な教員も多く兼職兼業で登録。年齢層は若い方から60代まで。
- 指導者の資格はどうか。
- 剣道は有段者。陸上競技は公認の資格を持っている者もいる。
- 大会運営は人材バンクからの派遣か。
- 現状では教員が大会運営、引率をしている。
- 剣道の参加状況を知りたい。
- 4校の剣道部から参加。開始時は3学年で約60名。現在は1、2年生だけで約30名。常時参加は20名程度。地域の小学生が10～15名参加。剣道未経験者や幼稚園児4名。指導者が4名、地域のボランティア5名。合わせて40～50名規模で実施している。
- 個人種目は指導しやすいが、団体種目の指導には課題が見えてくるのではないかと考える。

[京丹波町の取組]

- 京丹波町3中学校の生徒減に伴い、部活動の人数不足が大きな課題。チーム競技は一定の人数が必要なため、成立できない部も徐々に増加。部員の募集停止や入学説明会で部活動が実施できない旨を説明するなど心苦しい状況にある。
- 和知中学校では、部活動の保障から今年度9月に「フリースポーツ部」を設置。生徒が希望するスポーツに取り組めることを基本に、バスケットボール、カヌー、バレーボールを中心に活動。月曜をマルチスポーツの日とし、色々なスポーツやトレーニングを実施。フリースポーツ部は公式大会に出場できないことを生徒や保護者に伝え了解を得ている。顧問は3名体制。
- 本事業では、「生徒ができる限り自由に選択可能な部活動の継続」「教員の働き方改革に向けた多様な在り方」を目的として、3つの取組を実施。①小規模校における部活動の維持、継続から、合同部活動の実施やシーズン制の部活動を実施。②町の特色ある競技スポーツの普及振興から、京都国体を契機として地域に根差したホッケーとカヌーを採用。③中学校世代への派遣を目的とした地域スポーツ指導者人材バンクの設置。
- 取組を進めるにあたり、関係部署で協議を行い、3中学校の部活動の状況や課題、地域移行の考えについてのアンケート調査を実施。校長先生との面談も行った。
- 専門外競技の顧問負担について、例えば、審判の外部派遣や3中学校で合同部活動を設置し休日は持ち回りで担当する取組は負担軽減に繋がるといったこと。大会の在り方について、休日の兼職兼業は負担軽減にはならない、教員が支えている大会は教員がスタッフになる、大会が平日開催になれば休日の負担減になるといった意見もあった。また、地域移行は、これまで続いてきた日本型の部活動を変えることから、かなりハードルが高いこと。最終的な主体者の在り方や平日も含めた地域移行による課題。経費負担について、地域移行によって部活動ができない生徒が出てくるという心配もあった。先生方の意見を今後の部活動のヒントに繋がるものとして大切にしていきたい。
- 生徒の思いを大切に、この問題を考えていくことを関係者は共有している。また、地域移行は、関係団体やスポーツ協会、少年団等の協力が必要であり、丁寧に説明やアプローチをしていきたいと考えている。

【質疑応答】(●委員：意見・質問、○京丹波町教委：説明・回答)

- 和知中学校の文化系の活動はどうか。
- 合唱部がシーズン制で活動しているが、他の部活動と兼ねている生徒もいる。
- 他の中学校は、ホッケー以外の部に生徒が分散して、他が小規模な活動になっていないか。
- 球技関係は、チームが組める程度の所属人数となっている。
- フリースポーツ部は、生徒が色々なスポーツに楽しめるという機会を保障できている。顧問3名配置も複数の目で生徒の良い所を伸ばすための指導体制として効果的である。
- 生徒の部活動への意向を大切に、顧問は競技力向上のための指導者なのか、教育の一環としての役割を担う指導者なのかを明確にする必要もある。部活動は生徒と教師の信頼関係を繋ぐツールでもあるが、日頃から共に大会を目指している中で、休日だけ指導者が変わることに違和感がある。学校部活動が担ってきた、学校が楽しいと思うことや心身を鍛えるというスポーツの素晴らしさをどう伝えていくのかも検討が必要。
- 指導者側の課題や競技力向上の在り方が検討の主題になりがち。部活動は生徒にとって、将来に繋がっていくことを学ぶ大切な役割がある。地域移行の考え方も生徒の将来を考えたものにしていかなければならない。
- 2市町に共通するのは、生徒の意向を大切にすること。色々な実情の中で、部活動が地域と一体となった際に、どこを目指し、どのような体制で担っていくのかを明確にする仕組みが必要だと感じた。課題をしっかりと押さえながら、今後も情報交換と協力をしていきたい。

6 今後の予定

- ・第3回委員会 令和4年2月(予定)